

松本橋



あたらしい
出会いの場へ

地域の皆様のご協力のもと、新しい橋が完成しました。まち・ひとをつなぐ交流の空間へ生まれかわった松本橋を、ぜひご利用ください。



ともに、生きる。
江戸川区

新中川橋梁整備基本計画

新中川（中川放水路）開削のようす



新中川橋梁
(区管理)



新中川は、水害が相次ぐ東京東部の治水事業として開削された放水路で、昭和38年に完成しました。開削に合わせて造られた橋梁群は、都市に欠かせないインフラ施設であるとともに、地域を象徴するシンボルです。江戸川区では、放水路開削時に架けられ老朽化した橋梁の架け替えや都市計画道路の新設橋梁を整備するため、「新中川橋梁整備基本計画」を策定(昭和63年)し、「水辺と橋の織りなすコミュニティ回廊」を基本テーマに、順次、整備を進めています。

松本橋の歴史

旧橋



旧橋



松本橋(旧橋)は、昭和31年に車道部（幅4.5m）を建設、昭和45年に歩道部（幅1.5m×2）を拡幅し、地域の重要な交通路として皆様に愛されてきました。しかし、建設から約60年が経過し、老朽化が進んだこと、また、道幅が狭く、車両・歩行者ともにすれ違いが難しいなどの課題を解消するため、惜しまれつつも、平成28年、架替工事に着手しました。

地域との協働



意見交換会のようす



お別れ会（平成28年）



旧橋への感謝のメッセージ

新中川の東西にまたがる「松本町会」の皆様は、架替事業に先立ち「松本橋架け替え協議会」を立ち上げ、事業の円滑な推進や、新橋のデザイン検討などに尽力してくださいました。また旧橋撤去前には、協議会主催のお別れ会がひらかれ、地域の皆様から、旧橋への感謝のメッセージを多数寄せいただきました。

松本橋 架替工事の流れ



台風や大雨で川が増水しやすい出水期(6月～10月)は、河川内で行う工事ができません。また、橋脚の撤去や建設は、水の流れを一部止めながら行う必要があり、架け替えには7年の歳月を要しました。

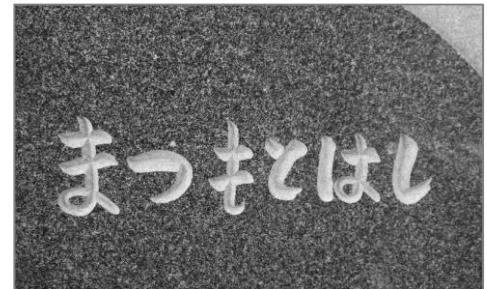
橋の長さ	115m	総事業費	約33億円
道の幅	歩道3m・車道7m・歩道3m	工事期間	2016年(平成28年)11月～2023年(令和5年)2月 開通

新しい松本橋



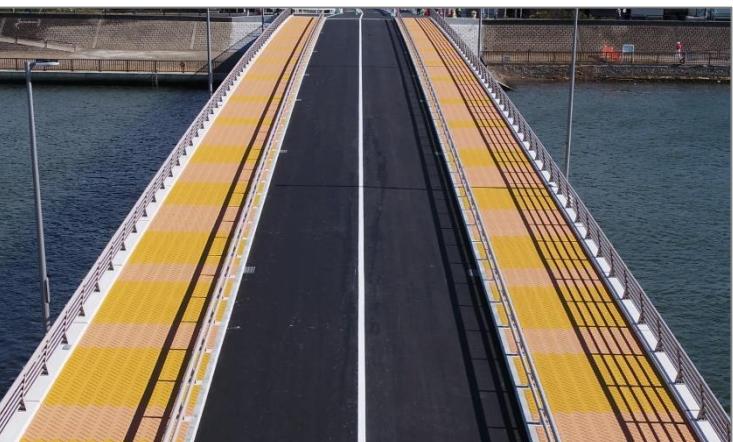
新しい松本橋は、車道・歩道を広げ、また周辺住民の方々のご協力で東側の取付道路を拡幅し、安全かつ安心して通りやすいように整備しました。耐久性や耐震性も旧橋に比較して格段に向上しました。日常は主要な生活道路として、災害時は避難路として機能します。

親柱



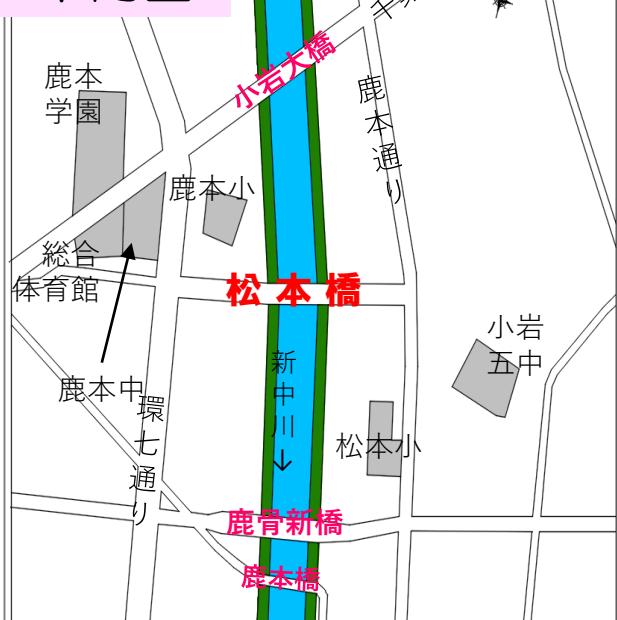
橋のたもとの「親柱」は、住民の和、人々が安らぐ輪をイメージする、丸みを帯びた形を採用しました。親柱に刻んだ橋名の文字は、地域の小・中学校の児童・生徒の皆さんに書いていただいたものです。かな表記に濁点を用いないのは、「川が濁らぬように」との願いをこめた古いならわしです。

デザインの特長



歩道舗装は、両岸に分かれた松本町会を結ぶ地域の方々の想いを表し、橋上で黄色の濃淡がグラデーションで調和していくデザインです。また橋の東側には、誰もが四季の彩りを楽しめるよう、車いす利用者の方もすぐそばに近づける花壇や、休憩用の丸いすを設けた「出会いの広場」を整備しました。

案内図



「ともに生きるまち」～SDGsの視点から～



江戸川区は「ともに生きるまち」を実現するため、「持続可能な開発目標(SDGs)」に取り組んでいます。松本橋架け替えでは下記の視点を重視しました。

- (1)洪水からまちを守る新中川と、まち・ひとをつなぐ橋で、「住み続けられるまち」を支えます。
- (2)交通の安全性を高めるため、道幅を広げました。
- (3)交通の分散を図り、渋滞によるCO₂排出を抑制します。
- (4)新橋は東西の地域をつなぐ交流の場となり、まちの皆様の絆を更に深めます。

